

研究機関名：市立旭川病院

| | |
|--------------|---|
| 承認番号 | |
| 課題名 | 内視鏡的粘膜下層剥離術後に発生する食道狭窄の予測因子に関する後方視的多施設共同研究 |
| 研究期間 | 西暦 2016年 12月 16日 ～ 2021年 12月 31日 |
| 研究の対象 | 2011年1月～2018年3月に当院、旭川医科大学、旭川厚生病院で食道の内視鏡治療を受けられた方 |
| 利用する試料・情報の種類 | <input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：病歴、治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| 外部への試料・情報提供 | <input checked="" type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先： ）（提供方法： ） <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ） |
| 研究組織 | 旭川医科大学病院 高橋慶太郎 旭川厚生病院 後藤 充 市立旭川病院 佐々木貴弘 |
| 研究の意義、目的 | 食道腫瘍に対して内視鏡治療が行われていますが、食道粘膜切除が3/4周以上になると食道狭窄が高率に発生します。様々な予防法が報告されていますが、狭窄予防の治療を行っても狭窄が起こる場合があります。一旦狭窄が起こると食事が食べられなくなり、生活の質が低下します。そのため、狭窄予防の治療効果が低い人達をなるべく早期に特定し、狭窄が出来上がる前に追加治療を検討する必要があります。今回、内視鏡治療後の内視鏡画像を元に狭窄リスクが高くなる要素を検討します。 |
| 研究の方法 | 内視鏡治療後、1週間前後で行われたカメラの画像を見直し、食道狭窄のリスクが高いかどうか検討します。 |
| その他 | 利用する情報、検体からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報外部に漏えいすることはありません。研究成果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。 |
| お問い合わせ先 | <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはあ</p> |

りません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号

電話：0166-24-3181

研究責任者：市立旭川病院 杉山 隆治

研究代表者：

所属：市立旭川病院

氏名：杉山 隆治